

2022年度(令和4年度)

事業報告書

自 2022年4月1日

至 2023年3月31日

公益社団法人日本ローイング協会

[2022年度(令和4年度)事業報告]

本会創立100周年を機に策定した「日本ボート協会2020ビジョン」をベースに、各委員会の中期事業計画を2021度末に策定した。そのスタートとなる今年度はそれぞれ計画した諸事業において具体的かつ確実な前進とその成果を目標に取り組んだ。その中でも2020東京オリンピック・パラリンピックの競技会場であった「海の森水上競技場」のレガシー活用の第一歩として、5月に「第100回記念全日本選手権大会」、10月に「TOKYO2020開催記念レガッタ」を開催し、多くの観客・選手そしてボランティアが参加し成功裏に終えることができ、今後につながる大会であった。

1.「日本の地域社会でローイング競技の普及を図る」に関する事業

感染症対策に留意しながらも、都道府県協会ならびに全国ボート場所在市町村協議会と連携し、ローイング人口の増大を図る取り組みを実施した。「パラローイング」においては新たな拠点の発掘に取り組んだほか体験乗艇会も継続して実施した。「コースタルローイング」においては神奈川県葉山町で初めて大会を開催するなど競技水域の拡大を図ると共に、本会として初めてクラウドファンディングを活用して新艇を購入し普及を進めた。また、World Rowing（以下「WR」）主催の大会への参加クルーを認定し出漕をサポートした。「インドアローイング」では3年ぶりに全国インドアローイング大会を実施したほか、初めての試みとしてバーチャルインドアローイング大会をテスト開催し競技層の拡大にも取り組み、同大会を今後も継続する方向で検討を進める。

2.「ボート選手の育成・強化を行い、競技力の向上を図る」に関する事業位

選手強化活動においては地元開催のオリンピックでメダル獲得に至らなかったことを踏まえ、2024年パリ大会への出場枠獲得と改めてメダル獲得を目指し、強化体制の充実・強化を進めた。加えて、軽量級種目が2028年のロサンゼルス大会から除外される可能性を見据え、オープン及びスweep種目の強化に力を入れた。結果として、ワールドカップⅡで男子ペアが4位、世界選手権では男子シングルスカルが7位に入賞するなど着実な成果が得られた。また、アスリート育成パスウェイの一環としてメダルポテンシャルアスリート（MPA）およびポテンシャルアスリート（PA）制度を導入し、頂点を狙うべく継続強化を更に明確に取り進める仕組み作りに努めた。

また、中長期的視点に立ったジュニアからシニアまで持続可能な国際競技力向上に向け、タレント発掘育成事業の更なる充実と6年目を迎えるJOCエリートアカデミー事業も継続した。成果としてはアジアジュニア選手権では男子クオドルプル、女子クオドルプル、女子ダブルスカルが金メダルを獲得した。

3.「ボートの全日本選手権大会及びこれに準ずる競漕会を開催する」に関する事業

安全で安心な大会運営を前提とし、5月の全日本選手権大会をはじめとして11大会を本会主催大会として開催した。ことに全日本選手権大会を「海の森水上競技場」において観客から初めて入場料を徴収して開催した。同会場での大会開催ノウハウの蓄積のみならず、有料制としての運営ノウハウも得ることができ、今後東京都および指定管理者との良好な協力関係を構築しながら、競技者にも観戦者にとってもさらに魅力ある大会運営を目指していく。

4.「日本代表チームの役員と選手を選定し、国際競漕大会へ派遣する」に関する事業

新型コロナウイルス感染の影響から国内合宿等の強化活動は慎重に実施した。海外へは欧州合宿を経てワールドカップ、地元大会、世界選手権に参戦した。オープン種目に好成果を得られたものの合宿中にコロナ感染者が発生し一部の選手は十分なパフォーマンスを発揮することができ

なかった。なお、JOC派遣大会であるワールドユニバーシティゲームズ（6月：中国・成都）およびアジア競技大会（9月：中国・杭州）は2023年に延期となった。

パラローイングにおいても代表チームを派遣し、世界選手権にて男子PR1シングルスカルで9位という過去最高の成績を収めることができた。

5.「ボート競技の諸規則・諸規定の制定及び競技用具の審査と検定」に関する事業

100周年記念事業の一環として昨年4月に発効した競漕規則・細則（改定版）については、WRの改定を踏まえ適切に見直しを行った。また、ボートコースの新規・更新認定業務を都道府県協会、コース管理自治体などと協力し実施した。

6.「その他の重要な事業」

本会の喫緊の課題である財政基盤の立て直しを図るため、新たな収入源の確保および既存収入源に関する根本的見直しの検討を行い、登録料および出漕料を改定し2023年度より適用する。

また、今年度より新たに開始されたスポーツ庁の助成制度「組織基盤強化支援事業助成金」を利用した本会の新プラットフォームの構築に着手した。3年計画を予定しており、「2020ビジョン」のもとで「する人」、「見る人」、「支える人」の輪を広げ、ローイングに関わる全ての人たちにその楽しさをもっと感じてもらえるよう情報管理システムの刷新とデータベースの構築を進める。そして、スポーツ庁策定のスポーツ団体ガバナンスコードに沿って体制整備を図るとともに適切な組織運営ならびに協会活動を継続する。

[2022年度(令和4年度)事業報告]

1. 競技本部関係事業

(1) 競漕大会開催ならびに競技者に関する事業

① 競漕大会開催について

・今年度は主催大会として、以下の大会を開催した。

開催期日	大会名	開催地・コース
5月12日(木)～15日(日)	第100回全日本選手権大会	東京都江東区 海の森水上競技場
5月28日(土)～29日(日)	全日本マスターズレガッタ特別大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
7月2日(土)～3日(日)	第72回全日本社会人選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
7月23日(土)～24日(日)	第42回全日本中学選手権競漕大会	宮城県登米市 アイエス総合ボート ランド(長沼)
8月11日(木)～14日(日)	第70回全日本高等学校選手権競漕大会	愛媛県今治市 玉川湖ボートコース
9月7日(水)～11日(日)	第49回全日本大学選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
9月10日(土)～11日(日)	第62回オックスフォード盾レガッタ	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
10月1日(土)～4日(火)	第77回国民体育大会ボート競技会	栃木県栃木市 谷中湖特設ボート競技場
10月16日(日)	TOKYO2020開催記念レガッタ	東京都江東区 海の森水上競技場
10月21日(金)～23日(日)	第63回全日本新人選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
2023年 3月19日(日)～21日(火)	JOCジュニアオリンピックカップ 第34回全国高等学校選抜大会	静岡県浜松市 天竜ボート場

※全日本選手権大会は軽量級種目を含めて開催した。

② インドアローイングについて

・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2年間開催を見送ってきたA大会(全国6ブロック)

およびB大会を開催した

・新たなインドアローイング大会の開催について検討しテスト大会を実施した。

③ 競技団体及び競技者について

・競技者規定に基づき、2022年度の競技団体及び競技者の資格決定を行った。

・2022年度の競技団体、競技者登録を行うとともに、当該年度の登録状況を把握した。

(2) コース認定に関する事業

今年度は以下の更新認定と新たに申請のあったコースについてコース認定を実施した。

・2022年度更新認定コース

都道府県	コース名	級	距離 (m)
富山県	富山県漕艇場	B	1,000
富山県	南砺市宮桂湖ボート場	B	2,000
静岡県	天竜ボート場	B	2,000
愛知県	愛知池漕艇場東郷コース	B	1,000
兵庫県	円山川城崎漕艇場	B	1,000
和歌山県	美山漕艇場	C	1,000
愛媛県	玉川湖ボートコース	B	1,000

(3) 競漕艇の計測に関する事業

第77回国民体育大会、第70回全国高等学校選手権及び第34回全国高等学校選抜大会において競漕艇の計測業務を行った。

(4) 海の森水上競技場に係わる事業

- ①東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシー活用の一環として、同会場において「第100回記念全日本選手権大会」及び「TOKYO2020開催記念レガッタ」を開催した。
- ②2024年春の海の森の本格的開業を見据え、大会利用・強化拠点・総合型地域スポーツクラブ設立に向けた施設整備および運用システム構築を関係先と連携し取り進めた。

(5) 審判に関する事業

①審判業務

- ・今年度本会主催および主管大会に審判長はじめ審判員を派遣し、大会審判業務をより円滑に行なった。

②審判員養成事業

- ・国体及びインターハイ等の地方大会において円滑な審判団編成の為、C級審判を現在の1,562名から1,700名に底上げを図った。
- ・審判員養成を目的に次の研修会と認定試験を行った。

研修会名称	開催時期	開催地
第91回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	7月	埼玉県・戸田
第92回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	10月	埼玉県・戸田

2. 強化本部関係事業

(1) 選手強化に関する事業

①基本方針

2024年パリオリンピックにおいて、2020東京オリンピックを上回る成果達成を目標に据えた新たなスタートとなる本年は、幅広い選手の育成と国際大会での決勝進出を果たすべく

その支援体制を確立する。

②具体的活動

1) 国際競技力の向上

- ・実効性ある強化戦略プランの着実なる実行と PDCA サイクルの実践による選択と集中により強化スピードをこれまで以上に向上させることに努めた。

2) オープンカテゴリー及びスweep種目の強化

- ・オリンピックにおける軽量級種目が除外される可能性を考慮し、オープンカテゴリー強化を加速させた。

3) 次世代ナショナルコーチの育成

- ・選手強化と両輪でナショナルチームを支える次世代コーチを計画的に育成するシステム整備に取り組んだ。

4) 選手所属団体との連携と関係強化

- ・強化ビジョンの共有とコミュニケーションの質量両面の増大により更なる関係強化を図った。

③強化合宿および海外派遣

内外の新型コロナウイルス感染状況等を勘案しながら、以下実施した。

1) 国内強化合宿

実施月	事業名	開催地
7月	強化合宿	岩手県・田瀬湖
8月	強化合宿	岩手県・田瀬湖
9月	強化合宿	岩手県・田瀬湖
10月	強化合宿	埼玉県・戸田
11月	強化合宿	埼玉県・戸田
12月	強化合宿	埼玉県・戸田
2023年1月	強化合宿	長野県・木島平
1月	強化合宿	埼玉県・戸田
2月	強化合宿	埼玉県・戸田
3月	強化合宿	埼玉県・戸田

2) 国際大会派遣および海外強化合宿

時期	事業名	開催地
5月	フランス合宿	フランス・ベルサン
6月	ワールドカップⅡ	ポーランド・ポズナン
6月	フランス合宿	フランス・ベルサン
7月	ワールドカップⅢ	スイス・ルツェルン
9月	世界選手権	チェコ・ラシチェ

3) JOC次世代

実施月	事業名	開催地	対象選手
7月	U19世界選手権事前合宿①	福井県・美浜	ジュニア

7月	U19世界選手権事前合宿②	福井県・美浜	ジュニア
7月	U19世界選手権	イタリア・バレーゼ	ジュニア
10月	アジアジュニア事前合宿	埼玉県・戸田	ジュニア
10月	アジアジュニア選手権	タイ・パタヤ	ジュニア

(2) タレント発掘、及び競技者育成に関する事業

①基本方針

- ・国際大会においてメダル獲得のポテンシャルのあるアスリートを発掘するとともに、一貫指導の下に育成強化を継続する「アスリートパスウェイ」基盤の確立と定着を図った。

②活動方針

1) タレント発掘活動の深化

- ・国内9地域との連携強化とメダルポテンシャルアスリート発掘チャンネルの深化・システム化を図った。

2) J-STARプロジェクトの継続推進

- ・JSC委託事業によるタレント発掘の手立てとして戦略的活用を継続した。

3) JOCエリートアカデミー事業への参画

- ・財政基盤を整備しつつ事業を継続し、育成パスウェイの一つとして活用した。

4) U19/U21/U23育成強化

- ・長期ビジョン「アスリートパスウェイ」に基づき次世代アスリートの育成強化を図った。

③具体的活動

1) メダルポテンシャルアスリート (U23・U21) 国内育成合宿

実施月	事業名	開催地	対象選手
4月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	WUG・U23・U21
5月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	WUG・U23・U21
6月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	WUG・U23・U21
7月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	U23・U21
8月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	U23・U21
12月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	WUG・U23・U21
1月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	WUG・U23・U21
3月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	WUG・U23・U21

2) JOCエリートアカデミー事業及びタレント育成

- ・JOCエリートアカデミーは今年度、新たに1名が選任、1名が修了し計3名となった。
- ・国内育成合宿

実施月	実施事業	開催地	対象選手
4月	タレント育成①②	福井県・久々子湖	タレント・EA
5月	タレント育成①②	福井県・久々子湖	タレント・EA
6月	タレント育成	福井県・久々子湖	タレント・EA

7月	タレント育成①②	福井県・久々子湖	タレント・EA
8月	タレント育成①②	福井県・久々子湖	タレント・EA
10月	タレント育成	福井県・久々子湖	タレント・EA
11月	タレント育成	福井県・久々子湖	タレント・EA
12月	タレント育成	埼玉県・戸田	タレント・EA
12月	U19有望選手発掘	佐賀県・しゃくなげ湖	U19有望選手
1月	タレント育成	埼玉県・戸田	タレント・EA
1月	U19有望選手発掘	熊本県・本明川	U19有望選手
2月	U19有望選手発掘	埼玉県・戸田	U19有望選手
3月	タレント育成	埼玉県・戸田	タレント・EA

・海外遠征

派遣月	大会名及び合宿名	開催地	対象選手
6月	Holland Becker	オランダ・アムステルダム	MPA・育成選手
7月	世界選手権 (U19/U23)	イタリア・ヴァレーゼ	MPA・育成選手

(3) 医科学に関する事業

新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、より安定的な医療従事者の確保及び協力関係を確保し、円滑な大会運営医療業務、強化合宿、海外遠征および日常トレーニングを通じた強化活動に貢献した。

①メディカルサポートに関する事業

- ・本会の主な主催大会（全日本選手権、全日本社会人選手権、全日本大学選手権及び全日本新人選手権）に医師ならびに看護師を派遣し、救急医事業務を行った。
- ・国内強化合宿、海外強化合宿および海外大会へ、医師並びにトレーナーが帯同し選手のコンデショニング維持、改善および指導を行った。
- ・コンデショニングに関する知識を普及するために、指導者と選手を対象に随時講習会を開催し、またホームページを利用した広報活動を行った。

②コロナ禍における活動

- ・開催期における新型コロナウイルス感染症の状況に応じ、各大会における新型コロナウイルス感染症対策計画をタイムリーに立案した。
- ・大会前後及び開催期間中における対応体制を取るとともに大会関係者に対する感染症指導及び管理業務を行った。

③競技用具の審査と検定に関する事業

- ・本会の規格艇登録規定に基づき、規格艇の審査、および原簿登録に係わる業務を行なった。
- ・第77回国民体育大会、第70回全国高等学校選手権、および第34回全国高等学校選抜大会において競漕艇の計測業務を行った。

(4) アンチ・ドーピングに関する事業

日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が指定して行う国内大会におけるドーピング検査を受け入れるとともに、強化指定選手中心から対象を更に拡げ、アンチ・ドーピングに関する教

育及び啓蒙の強化を図った。

①ドーピング検査受入

- ・JADAが指定して行うドーピング検査を受け入れるとともに合わせてサポート業務を行った。

②ドーピング防止啓発活動

- ・強化指定選手（パラローイングを含む）を対象としたWEBによるアンチ・ドーピング研修会を実施した。
- ・U19及びU23代表選手へのアンチ・ドーピング研修会の実施。
- ・各地の大会（朝日レガッタや国体地区予選など）においてアンチ・ドーピング研修会を実施した。
- ・アウトリーチ活動の実施～全日本選手権、全日本新人、朝日レガッタ開催時に実施した。

(5) 指導者育成に関する事業

①公認スポーツ指導者養成事業

公認資格指導者の人数増と質の向上を目指し、日本スポーツ協会助成事業による公認コーチ1、および3養成講習会について今年度は以下の日程で講習会を開催した。

また新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえ、オンラインによる講習会も実施した。

講習会名	開催日程	開催地
公認コーチ3養成講習会	前期：10/8（土）～10（月） 後期：11/4（金）～6（日）	埼玉県・戸田
公認コーチ1養成講習会	前期：6/25（土）～26（日） 後期：11/26（土）～27（日）	埼玉県・戸田
資格更新義務研修	6/5（日）	愛知県・
	東地区：11/26（土）～27（日） 中地区：11月19日（土）～20日（日） 西地区：11月26日（土）～27（日）	・高体連3地区 （東地区・中地区・西地区）

(6) アスリートに関する事業

以下事業を着実に実行し、アスリートの視点に立った提言及び関係事業へ参画した。

①トップアスリートの意見を集約し協会諸事業に反映

- ・各委員会より適宜諮問される諸事項についてアスリートの意見を集約し、アスリートファーストならびにアスリートの環境改善につながる提言を積極的に行った。
- ・強化合宿等の強化活動に関するアンケートを集約し、環境改善につながる提言を行った。

②本会主催諸事業に協力しボート競技の普及と発展に貢献

- ・ボート競技ならびにアスリートの地位向上のため、2024年パリオリンピック・パラリンピックに向けた広報活動や講演活動に積極的に参画した。
- ・スポンサー企業の協賛活動に積極的に参画した。
- ・サステイナブルな社会に貢献するため、ローイング水域の自然環境を改善・維持する活動を安全環境委員会と協働して企画し、大会開催時等を実施した。

③日本代表コーチ育成活動

- ・代表コーチを目指す人材の拡大を目標とした「ナショナルコーチ体験プログラム」をオ

リンピック周期で定期的実施した。

- ・ナショナルコーチ体験プログラム参加者のスキルアップを目的とした育成プログラムを定期的実施し、ナショナルチームに人材を送り込める体制を確立した。

④ トップアスリートのセカンドライフの支援

- ・トップアスリートが引退後も継続的にボート競技や協会の活動に携われるようサポートを行った。

3. 普及本部関係事業

(1) 普及に関する事業

① 総合型地域スポーツクラブ（SC）の設置及び既存クラブ活性化の支援

- ・各都道府県ローイング（ボート）協会及び全国ボート場所在市町村協議会と連動し、全国主要水域において普及環境の整備を行なった。

② ジュニア層のローイング人口増及び活動支援

- ・中学生および高校生の競技振興を図るため、全国中学校ボート連盟および全国高等学校体育連盟ボート専門部の活動に対し、助成金交付と支援を継続して行った。
- ・とりわけ、中学生の競技人口拡大に向けたアプローチを実施した。

③ 海の森水上競技場レガシーにおける普及活動

- ・海の森水上競技場のレガシー活用の一環として東京都ローイング協会が設立を目指す総合型地域スポーツクラブ（SC）の設置を支援した。
- ・競技普及の目的でTOKYO2020開催記念レガッタを海の森で開催した。
- ・海上スポーツ体験イベント「アクアフェス2022in海の森」の後援を行った。

④ オリンピアンの会に関する活動

- ・JSC助成事業として、ローイング競技普及を目的に「オリンピックとエルゴファイト」を海の森水上競技場ほかで行った。

(2) 広報に関する事業

国民へのローイング機会拡大のため、広範に適時適切な情報発信を行った。

① より魅力的な協会広報誌「ROWING」の発行

- ・今年度は、本会機関紙「ROWING」を6回発行。
- ・同時に内容の刷新と編集経費の見直しを図った。

② 本会ホームページの改善

- ・タイムリーな報告と強化関連を中心に掲載情報量のアップを図った。
- ・より見やすく検索しやすく発信しやすいとの観点から改善に向けグランドデザインを検討・刷新した。

③ 報道機関、マスコミへの対応と協力

- ・普及及びスポンサー獲得のためのメディア露出を目的とした、情報配信をより積極的に行った。
- ・協会体制及びコースタルローイング等の情報発信を東京運動記者クラブはじめ報道機関および出版業界との関係を密にし、報道を通じて本会の活動の広報に取り組んだ。

④ 情報源としての全国的サポートネットワークの作成

- ・ブロックリポーター制度を復活した。

⑤ 写真コンテスト「ボートのある風景」の実施

- ・新型コロナウイルス感染症の状況を勘案しながら適切に実施した。

(3) 安全環境に関する事業

以下の活動を通じて、ローイングの安全と環境保全に対する意識付けを適時行った。

① セーフティアドバイザー（SA4）制度の活性化と研修の実施

- ・全国のSAに対するオンライン会議の活用によるレベルの均質化を図った
- ・研修会の実施

事業名	開催日程	開催地
セーフティアドバイザー研修	2月	埼玉県・戸田

② ボート水域の安全確保・環境保全に向けての取り組み

- ・サステナブルな社会に貢献するため、ボート水域の自然環境を改善・維持する活動を、
大会開催時等に外部団体と協働して実施した。
- ・水域の安全確保を目的に海の森水上競技場航行ルール案を提示し、関係者と協議した。
- ・インシデントレポート掲示板を刷新しブロック長会議の場で活用を呼び掛けた。
- ・コースタルローイング安全マニュアルの策定を支援した。

③ 海の森水上競技場での主催大会におけるレスキュー体制の整備

(4) コースタルローイングに関する事業

2028年ロザンゼルスオリンピックから新たに加わる可能性の高いコースタルローイングの日本に於ける基盤作りを継続するとともに、海洋国日本に相応しいコースタルローイングスタイルを確立し、持続可能な事業基盤を作るとともに競技及びレジャー性を持ったコースタルローイングの普及事業を行なった。

① 水域及び拠点の開拓

- ・体験会及び主催大会の開催により国内各地における普及を図った。
- ・国内における普及拠点の確立～関東地区に新たに拠点を設けた。

② 安全対策

- ・危険性を伴う海のスポーツとして水難事故ゼロを目指し安全マニュアルを策定した。
- ・GPSキットの導入普及を行なった。

③ コースタルローイング事業基盤の確立

- ・普及艇購入のためのJARA初のクラウドファンディングを実施した。
- ・国際大会参加クルーを認定し、出漕をサポートした。

実施時期	大会名	開催地	対象種目 ※()内はクルー数	備考
10月	WRCC	GBR	CW4x+, CM4x+, CMix2x(2), CM1x	
10月	WRBSF	GBR	CMix2x, CW1x, CM1x, CJMix2x, CJW1x, CJM1x	
12月	ARBSF	UAE	CW2x, CW1x	大会延期

4. パラローイング本部関係事業

(1) 基本方針

- ・パラローイングの国内における普及拡大と、パラローイング事業基盤を構築する。
- ・2024年パリパラリンピックに向けた国際競争力を強化する。

(2) 基本計画

- ・国際競争力を強化し2024年パリパラリンピックへの複数種目出場と入賞を目指す。
- ・競技拠点について現在の相模湖漕艇場以外の拠点づくりを推進し競技の普及を図る。
- ・J-STAR等による選手発掘では、4名が検証PGに合格した。
- ・コーチ、スタッフの増員により、サポートを拡充した。

(3) 具体的活動

①国内合宿

実施月	事業名	開催地	対象選手
4月	4月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
5月	5月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
6月	6月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
7月	7月強化合宿 (2回)	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
8月	8月強化合宿 (2回)	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
9月	9月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
10月	10月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
12月	12月強化合宿	東京都・海の森水上競 技場	強化指定/育成選手
1月	1月強化合宿	東京都・海の森水上競 技場	強化指定/育成選手
2月	2月強化合宿	東京都・海の森水上競 技場	強化指定/育成選手
3月	3月強化合宿	鳥取県・錦海BC	強化指定/育成選手

②国際大会派遣

新型コロナウイルス感染症の状況を勘案しつつ以下の国際大会に選手団を派遣した。

派遣期間	大会名	開催地
5月	国際パラローイングレガッタ	イタリア・ガヴィラーテ
9月	世界選手権	チェコ・ラシチェ

③体験乗艇会の実施

- ・普及活動として、神奈川県相模湖、東京都海の森水上競技場、鳥取県米子市錦海BCにおいて乗艇体験会を実施した。

5. 管理本部関係事業及び独立委員会事業

(1) 国際関係事業

① 国際大会への審判派遣

今年度は以下の国際大会に審判員を派遣した。

WR各種大会

大会名	開催地	期間	審判員 (Lic. No.)	所属協会
ワールドカップ第1戦	ベオグラード セルビア	5月27-29日	山崎佳奈子 (1782)	東京
世界選手権	ラシチェ チェコ	9月18-25日	中島大祐 (1627)	東京

Asian Rowing Federation(以下ARF)主催大会

大会名	開催地	期間	審判員(Lic.No.)	所属協会
アジアジュニア選手権&アジア選手権	パタヤ タイ	11月29日 -12月4日	*千田隆夫 (1230) 隈元幸治 (1371)	岐阜 神奈川

*：審判長

② WR及びARF総会への代表者派遣

・各連盟の事業方針、各国動向等最新情報を把握するため下記総会へ代表者を派遣した。

会議名	会議日程	開催国・会場
WR通常総会	9月26日	チェコ・ラシチェ (現地・オンライン併用開催)
ARF総会	12月3日	タイ・パタヤ

③ WR及びARFにおけるポスト獲得

- ・WR関係3名、ARF9名のポストの維持に加えて、2026年アジア大会開催国に付与される新たなポスト（ARF副会長）の人選を進め、その結果、細淵雅邦が次期副会長に選ばれた。
- ・ARFの各委員会の委員長・委員に推薦した8名が当選した。

④ WR国際審判試験の実施

- ・12月17-18日に愛知県名古屋市内でWR国際審判試験を実施し、新たに3名の日本人国際審判が合格した。

(2) 財政基盤強化に関する事業

①助成金について

- ・日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センター、戸田競艇事業者およびその他団体に対し当協会の諸事業の目的ならびに重要性について理解を求め、継続的且つ安定的な支援をお願いした。

②事業収入の見直しについて

- ・各種事業収入の単価等を見直すとともに、登録料、出漕料等の見直しを行い、2023年度以降の財政基盤の強化を図った。

③マーケティング戦略の構築を検討

- ・JOCの新企画であるジョイントマーケティングに参加し、新たな協賛企業の獲得に至った。
- ・新ビジョンに基づき、協会の事業価値を抜本的に整理しマーケティング戦略の構築を行うために、新たに総務委員会内にマーケティング部会を設置した。

(3) ガバナンス強化に関する事業

加盟上部団体（JSP0、JOC、JPSA）による本会のガバナンスコードの適合性審査では、要改善事項の該当はなしとの結果であったが、より一層の体制強化と徹底を図った。

①公益法人に関する業務の推進

- ・公益法人として協会運営を行うために、必要な各種規定類の更なる整備をするとともに、その他の関連業務を継続して実施した。

②コンプライアンスおよびインテグリティの徹底

- ・強化の現場および協会役員に対するコンプライアンス及びインテグリティ教育について、JOC等主催の研修会ならびに講習会参加による啓蒙活動を継続した。

(4) 100周年記念に関する事業

新型コロナウイルスの感染症拡大のため延期となっている「記念式典・祝賀会」については感染状況を踏まえて延期とした。

(5) 企画戦略に関する事業

- ・「2020ビジョン」の推進・実現に向けて本会の現状分析と課題を整理し、各委員会とも連携しながら中期事業計画の横断的進捗管理を図り、また併行して中期事業計画の精査および軌道修正など本会の方向性に関し提案した。
- ・スポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）推進にむけて、各委員会との情報交換を密に行い重要性の周知を徹底した。
- ・2020東京オリンピック・パラリンピックのレガシー全般の推進を行なった。
- ・海の森水上競技場におけるレガシー推進計画の企画・立案および関係先との調整を図った。

以上